

《報 告》

# 認知症看護の普及啓発にセブクロス法を活用しての効果

大嶋 光子

椋山女学園大学看護学部

## 要 旨

### 【目 的】

高齢化と平均寿命の延びに伴って、認知症の患者数が年々増加することは明らかになっている。そのため、看護師は新たな認知症看護の問題に直面していくことが予想される。今回、看護師専門教育の一環として、認知症看護の研修を実施した。研修で行ったグループ演習の効果を検討することが目的である。

### 【方 法】

看護師80名を対象とし、グループ演習のなかでセブクロス法を用い、質的帰納法的に分析を行った。

### 【結 果】

グループ演習から得られたデータより、構成因子の抽出の結果、第1位に「笑顔」「人格」「いやし」「愛情」「人として」「制限しないで」「傾聴」「叱らないで」「自由」「思いやり」の10項目が得られた。

### 【結 論】

研修においてセブクロス法を実施することで、認知症患者を疾患という一方向からのみ、見るのではなく、一人の人として尊重することが必要であることが明確になった。セブクロス法は認知症看護研修において有用であることが確認された。

キーワード：認知症    セブクロス法    看護師    パーソン・センタード・ケア